

平成 28 年度 ソフトウェア工学 レポート課題 Part1

「ソフトウェアのマニュアル作成」

平成 28 年 6 月 15 日
67140390 平木場 風太
hm14039@student.miyazaki-u.ac.jp

1. 制作スケジュール

理想：6/7(月)～6/9(木) プログラム作成、6/10(木)～6/14(火) マニュアル作成

現実：6/12(日)～6/13(月) プログラム作成、6/14(火)～6/15(水) マニュアル作成

結局スケジュール通りに作業を進めることができなかった。製作開始がひどく遅れてしまった。実際テストも控えており、プログラミング演習の課題もあったが、そもそも 5 月時点で始めておけば良かった話である。プログラム自体は簡単であったため何とか納期には間に合ったが、マニュアル作成時に、ああしたいこうしたいといったアイデアが次々と浮かび、遅く始めた自分を呪った。実際の仕事だった場合、納期に間に合わないことは許されない上に、余裕があるとソフトウェアの品質を上げることもできるので、余裕を持ったスケジュールを計画・実行していきたい。

2. 工夫した箇所

プログラム

- 入力する値が数字以外だった場合の例外処理を実装した。
- 今回はソフトウェア制作ということで、普段ならしない、scanf 文でのバッファオーバーフロー (バッファオーバーラン) を防ぐための方法を時間をかけて調べて、何度もテストした。結果うまく動いた。
- ソフトウェア実行時に引数を与えることで、余計なメッセージを出さずに効率よく変換が行えるようにした。これによりシェルスクリプトに組み込むことも用意となった。(ただし、複数の数字をパイプで渡すことができなかった。今後の課題となった。)

マニュアル

- 普段なら MSWord を使うが、今回は LaTeX で文書を作った。自分は Word より LaTeX の方が性に合ってると思った。
- マニュアルを書くということで、フリーソフトにお馴染みの Readme.txt を複数参考にした。
- ソースコードを文書内に取り込んだ (listings というパッケージを使っており、行番号が振られたり、インデントがずれなかったりするだけでなく、ソースファイルに変更があった時、.tex ファイルをいじらなくても、タイプセットすれば文書内のソースコードが更新されるというメリットもある) から楽だった。